

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400940		
法人名	株式会社ナカムラ		
事業所名	ケアガーデンオアシス グループホームつきとほし		
所在地	長崎県諫早市福田町2-22		
自己評価作成日	平成 30年 10月 10日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 30年 11月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊所は看取りは実施していないが、普段から利用者それぞれのかかりつけ医、訪問看護と連携を持ち、利用者の変化異状にはいち早く対応出来る様心掛けています。また、食事は手作りを第一とし家庭的な雰囲気の中普段家で食べているような食事内容を心掛けています。個々の利用者に対する対応も「この人が自分の家族だったら。」ということが一番を考えて対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

諫早市の中心部に位置し、併設する母体運営の居宅介護支援事業所や通所施設とともに地域の高齢者福祉を支えるホームとなっている。ホームでは「オアシス」の理念のもと少人数での家庭的な雰囲気を大事にした支援に努めており、入居後も併設の通所施設を利用する顔馴染みの友人や職員との関係性を継続しながら新たな住まいへと移行することができ、強みとなっている。職員は挨拶を通じた入居者や家族との関係構築を大事にし、話し合いを重ねることにより入居者・家族との更なる信頼関係の構築や入居者本人の望む生活の実現に向け日々取り組まれている。ホームでは入居者の高齢化に伴い身体的な介助や日常生活の様々な場面において介助が必要となってきたが、職員はそれぞれスキルアップを図りながら入居者個々の特性を理解し、その方に応じた支援の充実に努めている。地域福祉の介護力向上に意識を払い課題を真摯に受け止め取り組む姿勢に、今後ますます期待の持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームほし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで仕事をして来られた職場の同僚の面会があったり、行きつけの美容院の方が来て下さり地域の中で生活して来た事を忘れない様に職員全員で理念を実践に繋げている。	職員は「オアシス」の理念をもとに入居者・家族との信頼関係構築に努めており、それにより支援の充実が図られている。ホームでは入居者・家族との馴染みの関係が作られることによって親しみを感じる家庭的な雰囲気を作り出し、入居者の居心地良く生活しやすい環境づくりに努めている。	現在、ホームでは挨拶を基本とした入居者や家族との信頼関係の構築に努められているが、職員それぞれの価値観やホーム理念の理解については課題が窺われる。今後、職員間で方向性の明確化・統一を図り、更なる理念の浸透に向けた取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、学校からの慰問もありまた敬老会などの行事に踊り大正琴など地域の方が来て下さっている。	職員は日頃から地域行事への参加や挨拶を意識した関わりを持つなど、入居者が住み慣れた地域で継続的に暮らすことができるよう地域との顔が見える関係づくりに努めている。また、ホーム敷地内には外気浴の際に入居者と地域の方が交流を持てるよう地域の方が気軽に休憩できる空間が設けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム協議会、認知症教室などに参加しオレンジ連携シートの活用を地域の方と一緒に取組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や利用者の状況報告を行い取り組んで来た事を話しそれに対しての意見等を頂きサービス向上につなげている。	運営推進会議には民生委員や家族の参加があり、薬や栄養などについての入居者の現状や高齢者についての理解に繋げる取り組みとして外部講師を招いている。会議では写真を用いて入居者の日頃の暮らしぶりを伝え支援の評価が行われたり、情報交換の場としての活用がなされたりと、穏やかな雰囲気の中で議事進行がとり行われている様子が窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き地域の状況を伺ったり施設運営に関しての質問や相談にのってもらったりしている。	ホームは運営推進会議を中心に市担当者との接点を持ち、ホームの現状や方針についての理解を図るとともに困難事例についても解決に向けて早急な取り組みに努められている。今年度は医療連携や事業展開における法令遵守等の相談を行い、事業運営に関しても確認作業を行っている。今後も市担当者との協力関係を築き取り組んでいく意向にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策のため建物構造上自由に入出することが出来ない。ベットの柵、センサーなど必要になったときは家族に説明し了承を得ている。	ホームでは入居者の高齢化や心身機能の低下に伴い転倒リスクを考慮した器具を使用されているが、使用開始時には家族の同意を頂き身体面でのアセスメントを行い必要性を話し合いながら入居者の安全確保に努めている。対応方法については職員間で話し合いが行われているが、入居者の状態改善に向けた課題・ニーズの把握について更なる専門性を持った対応が望まれる。尚、本年12月より身体拘束廃止委員会の設置や運営推進会議を活用した委員会の開催を予定されている。	転倒リスクを考慮した器具の使用により入居者の安全が確保される一方で、本人や家族の精神的ダメージを考慮した対応については課題が窺われる。また、身体拘束等の適正化に向けた身体拘束廃止委員会の設置や指針の整備、職員の定期的な研修会の機会や経過記録についていずれも未整備の状況にあるため、改善に向けた早急な対応が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活を共にしていると不適切な言葉に気づかなかつたりする事もあり、お互いに注意し合い再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉の方を招き、後見制度についての説明を受けたり資料など職員が閲覧出来るようしている。一名後見制度を利用している。また別の一名は現在申請中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書二部作成しており、契約内容等文書で確認して頂いている。一部は家族保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会など利用者の家族からの要望など伺い運営に反映させている。	職員は、家族の面会時に入居者の暮らしぶりを伝えており、家族との信頼関係構築や入居者の現状理解に努めている。毎年開催される家族会では地域からの慰問や会食が催され、その際家族一人ひとりの意向の確認を行いホーム方針の理解にも繋げている。家族会で抽出された意見については早急に解決できるよう取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や勤務の中で聞く事が出来ている。意見要望をまとめ代表者に相談している。	ホームでは、施設長を初め管理者や主任が職員の身近な存在として関わりを持っており、入居者や職員の声に早急に対応できるよう努められている。定期的に行われるスタッフ会議は様々な課題についての職員相互の経験や知見を共有する場として活用され、自由な意見交換がなされている。また、職員は諫早市内で開催される外部研修に参加する機会も多く、職員それぞれがスキルを高め日々のケアの充実に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準をあげたり、労働時間の調整、有給休暇の積極的な消化を進め職場環境の条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の各種研修会への参加の機会を確保。各自がレベルアップしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の運営推進会議に参加したり研修会や勉強会に参加することでネットワークづくりや交流する機会に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人や家族と会い、今の心身の状態や今までの生活歴などを尋ね状態把握をしこれからの職員との信頼関係が早く築けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心眠、不安に思っている事に耳を傾けこれからどのような生活を送って欲しいかを尋ね少しでも安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今困っている事、不安に思っている事に耳を傾けこれからどのような生活を送りたいのか尋ね少しでも安心して頂けるよう支援していきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に生活しているという思いの中で食事を共にとったり食器洗いを手伝って頂いたりテレビを観ながら会話をし日々穏やかに過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を家族に報告したり職員が対応に困っている事など相談したりと双方がご本人を支える協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも会いに来れるホームとなるように来訪した際は職員は挨拶を心掛け、家族知人兄弟の方達の来訪が途切れないよう支援に努めている。	ホームでは入居者の心身機能の低下により外出支援が困難な現状にあるが、家族と協力しながらできるだけ外出や外泊ができるよう取り組まれている。家族や入居以前からの知り合いの方の面会も多く、職員は入居者が大事にしてきた関係性が途切れないよう日々の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居前に家族から生活歴を伺いアセスメント表を作成し友人関係など途切れないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された本人からハガキが届いたり懐かしくなりちょっと寄ってみましたと来て下さる方もおります。又他の家族にここを紹介して下さる人もいます。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの状況を家族に尋ねたり、本人からの希望要望を聴き、少しでも本人らしい生活が出来るように努めています。	職員は入居者の話をよく聞くことによりその方の意思が汲み取れるよう努めている。また、家族からの聞き取りや入居者の普段の行動などから生育環境や生活歴を把握し、職員間で入居者の行動理由の共通理解を図りながらその方の視点や立場に立ったケアの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から生活歴を伺いアセスメント表を作成し友人関係など途切れないよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を記録し又その日の動き、言葉などに注意し状態を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族からの要望、意見を聞きスタッフ会議毎日の申し送りの中で話し合い、より良いケアが出来るように努めている。	介護計画は、介護記録をもとに現状把握を行った上でその方の課題を抽出しながら現状に沿った内容で立案されている。家族への計画内容の説明の際には分かりやすい言葉を使うよう心掛け計画作成の工程や今後の支援方針などを話し合い、無理なく実践できる内容なのかを検討しながらその方らしい生活の実現に向け取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア日誌、介護記録がありその日の様子を記入している。又申し送り帳があり勤務前に眼を通し確認の捺印をするように義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	契約時病院受診は家族にお願いしているが状況により受診に付き添ったり安心して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで生活して来た地域との関係を継続できるように行きつけの美容室、かかりつけの病院との連携を取っている。運営推進会議では民生委員の方にも参加して頂き意見交換の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかりつけ医に往診して頂いている。現在は往診が殆んどで受診には家族にお願いしたり職員が対応したりしている。	ホームでは入居前からのかかりつけ医による往診にて対応されており、入居者の身体的負担に配慮した医療を継続して受けられる環境にある。入居者が入院となった際にも医療連携室や主治医、家族と相談しながら早期退院に向けた取り組みがなされ、医療連携看護師による定期的な健康状態の管理や些細な身体の変化にも迅速に対応できる体制が整備され、入居者や家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を契約した。月/4回の訪問があり、急変時の対応の助言が受けられるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの生活状況、既往歴などを伝えている。入院中はお見舞いに伺い会話をしたり早期退院が出来るよう努めている。退院時は情報提供書や医療連携室を通し病院側との連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてはターミナルは行っていないが家族からの意向は多くなってきている。生活して来た所で最期を迎えさせてあげたいと思いは伝わって来る。少しでも長くここでの生活が出来るように全スタッフでとりくんでいきたい。	ホームでは食事形態の検討・対応を行い往診や病院の医療連携を利用しながら経口摂取が出来るまでの対応となっており、今回行われた家族会で終末期の過ごし方について意向の確認や意見の集約を図られている。職員は医療的措置が必要となるまではホームを「終の棲家」と思っていただけよう本人や家族の不安に寄り添いながら、ともに生活を支えられるよう日々の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故に対してのマニュアルを作成している。スタッフ全員が把握している。落ち着いて行動出来るようにひびの勤務の中で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域の消防団との連携は出来ている。避難経路は全職員が把握している。火を出さない為に日頃からコンセントにホコリが溜まらないように環境整備に努めている。	避難訓練は新規採用職員を中心に実施され、動作の確認や入居者毎の避難誘導方法、一時避難場所の確認などが行われている。今回は備蓄品の更なる充実やハザードマップの確認が行われ、運営推進会議においても風水害時の対応についてホームの立地環境や過去の水害時の知見の共有など市と確認する機会を設けている。今後入居者の重度化に伴い避難誘導が困難となることが予想されるため、民生委員や近隣住民の理解を図るとともに安全性を深める更なる取り組みが望まれる。	現在、防災計画の策定や風水害訓練の実施状況に課題が窺われ、ホームが建物の2・3階に位置する構造上職員の防災意識向上への取り組みや避難誘導の際の地域からの協力などが必要な状況であることが窺われる。入居者の心身の状態変化に応じた訓練を繰り返し行うことや、職員間で話し合いの機会を設け実効性の高い訓練となることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し日々の生活の中で命令的な強い言葉遣いになっていないか、心を傷つけていないか常に振り返り確認改善に努めている。周囲にも配慮を行いプライバシーを確保する対応を心掛けている。	職員は排泄や入浴の場面において入居者が人の手に委ねる心情の理解に努め、介助が必要な部分のみ支援を行うよう取り組まれている。また、帰宅願望など心の動きに注意を払い入居者一人ひとりを自分の身内のひとりであるよう捉えており、言葉遣いや向き合う姿勢などその方の尊厳を大事にした支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個々に合わせた解りやすい言葉かけを行い本人の思いや希望を少しでも把握するように努めている。話易い雰囲気を作り出来るだけ自己決定が可能となるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な一日の流れは基本であるが本人の体調や気持ちを大切にそれぞれのペースに添った個別の対応を行っている。本人の希望に少しでも近づけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に来てもらい本人の希望を尋ね髪カットを行ったり、季節などの配慮を行いながら本人と一緒に好みに任せて決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ行事のメニューなど色彩や味、香りを楽しんで頂いている。テーブル拭きや食器洗いなど職員と一緒に見守りながら取り組んでいる。	ホームではユニット毎に献立が準備され、入居者の状態や希望にそった柔軟な対応がなされている。調理担当者は入居者が食事に興味を持てるよう季節感や形あるものを意識しながら工夫を凝らし、寛いだ環境の中で食事を入居者自ら口に運べるよう席の配置にも留意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量を把握出来る様している。体調に応じておかゆを提供したり、刻んだり、トロミをつけたりして提供している。レクリエーションの後や本人希望時には水分補給をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い自分で出来る方は見守り確認を行い、介助が必要な方は一緒に行っている。義歯の洗浄や歯茎に異状がないか注意し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表を見ながらトイレ誘導を行っている。又、身体の動きや仕草でトイレに行きたいのかなど気掛けたり少しでも失敗を少なくする様に支援している。	排泄は、入居者の心身の状況を把握しながら声掛けを工夫したり居室内を排泄の自立に向けて生活動線を考慮した家具の配置にしたりするなど、職員間で支援の統一が図られている。職員は入居者の身体状況に応じて歩行器や車いすなどを準備し、本人に無理強いないタイミングでの声掛けを行いながら失敗しないケアの実現に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に便の状態が把握できる項目があり、日々注意しながらチェックしている。食材、水分、運動などで自然排便が出来るように取り組んでいる。又、主治医と相談し薬の処方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤で気分転換を図って頂いている。拒否される時は時間をおき再度声かけを行っている。一人ひとりの湯加減も把握出来ている。	職員は入居者それぞれが抱く入浴の困難さやまごつきを理解し、自然な流れで浴室に足を運ぶことができるよう心掛けている。また、入居者それぞれに応じた言葉掛けの工夫によって入浴に対して抵抗なく、本人のできる範囲で洗身ができるよう身振りで動作を促しながら羞恥心に配慮した安心できる入浴環境となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを整え、体操、お手伝いなどでほど良く疲れて眠れる方も居る。どうしても眠れない方には主治医と相談し薬の処方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬のケースがあり、服用時は必ず名前日にち、朝、昼、夕なのかを確認し手渡し又は介助で服用して頂いている。処方箋は見やすい場所に貼ってあり、副作用も確保出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前に本人、家族から趣味嗜好など尋ねている。それに添った支援が出来るように取り組んでいる。洗濯物たたみ、食器洗いなど手伝って下さった時は感謝の気持ちを伝えている。誕生日には好きなお料理を尋ね提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近では外出できる機会が少なくなり季節感を味わうために花を飾ったりしている。殆んどの方が車椅子、歩行器を使用しており外出するには家族の協力を得ないと職員だけでは難しくなっている。	ホームでは近隣への散歩や季節毎の外出を計画するなどし、高齢化や身体機能の低下に伴い外出を億劫に感じられている入居者にもできるだけ外気に触れて気分転換が図られるよう取り組まれている。ホームは家族の協力を得ながら入居者に出かけることが楽しみと思っただけのよう取り組まれているが、現状に課題を感じている。今後の取り組みが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆んどの方はホームで預かっている。買い物する機会もなく、本人の財布から支払うことは殆んどなくなった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人、兄弟など面会に来て下さる方が殆んどで手紙が来たら本人に手渡し一緒に拝読し居室へ飾って差し上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには季節の花等飾り季節感を出すようにしている。室温、入浴では湯の温度など入居者に尋ねるように心がけ快適に過ごせる様に取組んでいる。	ホームは、職員の丁寧な手入れや季節感を感じる装いによって清潔で気持ちの良い空間となっている。日当たりの良い場所には大きな窓があり、入居者は階下に広がる木々の色づきや地域の人々の暮らしを眺め楽しむことができる。また、食堂は入居者の対人関係やそれぞれの特性に応じた席の配置となっており、入居者同士が寛いだ空間でそれぞれに時を刻む様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい時は居室に行かれたりリビングでは皆さんと会話したりレクリエーションに参加され楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた品物、家具など持ち込んで頂き居心地の良いように本人と家族で相談しながら居室作りを行っている。	居室には入居者の使い慣れた家具や手回り品の持ち込みがあり、思い出の品を目印に自分の部屋であることを認識することができる。居室内のレイアウトも自宅と近い状態となるよう家族と話し合い、入居間もない方についても居室入口に目印となるものを示すことにより新しい環境に徐々に慣れていけるような配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口にはネームプレートを下げ、トイレ、洗面所には解りやすいように記入した紙を貼っている。又、車椅子や歩行器の方が増え設置を考えスムーズに出入り出来る様に工夫している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践出来ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議への参加等を通じ地域住民と交流をもつ機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア専門士のサイトを通じ認知症に関する相談を受け付ける窓口を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に寄せられた利用者家族から出た意見はスタッフ間で共有し取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時だけでなく市担当者とは充に連絡を取り不明瞭な点は意見を請うている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を基本的にしらない旨と身体拘束にあたる事案についての理解を職員に向けて周知徹底し、やむをえず身体拘束を行う上でのプロセスについて家族に説明し納得してもらってから署名してもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力だけでなく、暴言など不適切ケアについて職員間でお互いに注意を促すと共にどういった言葉が不適切ケアにあたるか、話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を設け、これらを実際に活用できるようすすめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には新しい入居者家族に対し説明を行い契約後の質問等についても丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族から意見、要望、苦情があった場合は管理者、施設長が受け対応し運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見提案は個々に管理者又は代表者がそれぞれに聞いたり共に話をする機会を設け意見を汲み取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を挙げたり、労働時間の調整、有給休暇の積極的な消化をすすめ職員の職場環境の条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の各種研修会の参加の機会を出来るだけ確保し各自がレベルアップしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の運営推進会議に参加したり研修会や勉強会に参加することでネットワークづくりや交流する機会に取組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居もない利用者及び利用者家族に対し不安に思うことなど、それとなく聞き入れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所間もない家族またこれから近々入所予定の利用者家族には特に電話等で連絡を充にとる様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスという観点からではなく、その人その人それぞれの気持ち、体調に寄り添える様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側と介護される側という間柄ではなく、自分の親や祖父母のような間柄の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆も大切にしながら家族が利用者を支える上で難しいところをサービスという概念にとらわれないで支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がそれまで大切にしてきた馴染みの人などの訪問があった際には歓迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりが孤立しないよう、共通の話題がでるような話をしたり、一緒にレクリエーションなどを行うことで関わりを持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了(退所、死亡)した後もこれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日のスケジュールの一つ一つを利用者個人個人の希望に合わせることは難しいが出来るだけ本人の意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方に関し、本人又は家族等に折に触れ尋ねこれまでのサービス経過等に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの一日の過ごし方に無理強いはず本人の希望に合わせた過ごし方を進め、お手伝いなど出来ることはお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族等に希望を聞き職員間で意見を出し合い、その都度介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ会議等で個々の利用者の問題点を取り上げ職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に対応しサービスの概念にとらわれない支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を全て活用しているわけではないが極力地域資源を活用し安全で豊かな暮らしを楽しむよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人が入所以前から受診していた医師に引き続き往診して頂けるようお願いし、それが叶わない場合は家族と相談し適切な医療が受けられるよう、専門医に往診して頂けるようしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報は医療連携している訪問看護やかかりつけ医に逐一報告し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は早期に医療連携シート服薬情報等を入院先医療機関に提出し退院の際は退院時の情報、帰設してからの注意事項を受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化を考慮し始めた段階で家族及びかかりつけ医と共に次回受け入れ先について話し合いを行い受け入れ先決定時には情報共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で急変時の機器の取り扱いについての講演会、急変についての数値の見方についてレクチャーを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災についての訓練は行っている。水害等の災害に於いては弊所から移動したほうが危険と考えている。また、火災を未然に防ぐ為火元は勿論コンセントなどの漏電にも注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損なわない言葉かけを心掛けているが個人の尊厳、不適切対応を改めて考えみると十分とは言えない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に意思が伝わらなかったり、あるいは利用者本人の希望の表れが汲み取れなかったりすることもあるが自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に100%沿うことは難しいが大概利用者の希望に沿っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時身だしなみを本人が行き届かないところは職員が手助けをし、その人らしい身だしなみ、その人らしいおしゃれを出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう一人ひとりの力を活かしながら食事をし、片付けを一部利用者にしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、疾患による食事量、内容の検討など医師や職員間で話し合い支援している。また水分量なども記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとり毎食後それぞれの本人の力に応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりに近い状態であっても、日中はトイレへ誘導するなどトイレ及びポータブルトイレでの排泄を実行し排泄自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因になる疾患、薬の副作用等を念頭におきながら野菜中心の食生活と日々1日2回の体操等運動を行うよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は入浴が楽しめるよう入浴剤などで色や香りを楽しんでもらったり、浴槽に浸かる時間を本人の希望に合わせるなど個々にそった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が日中「部屋でゆっくりしたい。」との希望があれば本人の意思に沿うものとし夜は安心してよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが使用している薬の内容を掲示し、何時でも副作用、目的について確認出来るようしており症状の変化による内容の変更等は別途申し送りの為の伝言ノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びのある日々を過ごせるよう1人ひとりに活かした役割をお願いしているが出来なくなったり、しなくなったりすることも多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての利用者を一遍に外出することは難しくなっているが個々に家族の協力などを得ながら出かけられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしてもらっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人の電話や手紙は宛先は職員が代筆し、文面を書くことが困難な利用者には於いては名前だけでも本人に書いてもらうようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招くよう刺激がないよう配慮。玄関に季節ごととはいかないが折に触れ花等を飾るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において一人一人の場所を決め、思い思いの事が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からタンスや使い慣れた道具など持ち込んでもらい居心地よく過ごせる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に努め出来るだけ自立した生活がおくられるように工夫している。		